

兒童の遊戲に就て（承前）

文學士 倉橋 惣三

一、諸感覺 兒童の遊戲中の最原始的なるものは、諸感覺に基く遊戲であります。其の中主なるものにつき述べて見ますれば、第一は觸覺に訴ふる處のもので、幼兒の生活に最も早くより顯はれます。手に於てするのが即ち「にぎ／＼」であります。してブライエルの記載によれば生後第八週に於て行はれます。次に唇に於て行はるゝのが即ち「おしやぶり」であります。共に是れ皆觸覺に訴ふる快樂に基くものであります。但し斯くの如き事は單に幼兒に行はるゝのみではありません。吾々成人に於ても是等の唇若くは指の觸覺に訴ふる遊戲は常に行はれます。吾々が筆の軸や鉛筆などを識らず識らずに口に入れる如きは習慣の結果でありあります。又グロースの申て居る如く、彼の卷

煙草や煙管を口にすることも亦、其の喫煙の愉快の他に唇の觸覺も大に關係して居るのであります。之を指の場合に就て見ますれば、吾々が散步の折に携へるステッキなるものは、其の本來の用途から云へば種々の目的がありませうが、併し實際には之亦指の觸覺の娛樂に他ならぬ場合が多いのであります。斯くの如く吾々は日常の習慣として、別に一個の遊戲とも思はずに行つておる事の中に多くの觸覺的遊戲を見出し得るのであります。又兒童の場合に戻りまして、常に指や唇ばかりでなく身體各部に於て單にその觸覺のみから成れる娛樂の例は少くありません。「おつむてん／＼」「はなはな（幼兒の鼻や耳に觸るゝ遊び）又身體の諸部分を指名しては之を撫で擦する遊びの如き皆此の例にあたるのであります。次に聽覺に訴ふる遊戲は之れを大きく二種に別ちて（一）單に受動的に音樂を聴くの樂みと、（二）自ら音響を發して樂むのようになります。之れを成人の場合に就て言ひますれば即ち音樂を聴く方と奏する方にあたるのであります。が特にとり立てゝ音樂と名づけない種

類に於て兒童に此の種の遊戲が行はるゝのであります。前者は即ち子守歌の類を始めとし聲音又は諸種の樂音に對する兒童の嗜好を指すのであります。後者は便宜上更に二つに分けて考へる事が出来ます。其の一つは即ち口を以てする音でありまして、先づ未だ言語なき時代の喃音を始めとして、幼兒は必ずしも人に語らんとするのでなく、單に自ら聲を發して樂む事の多いものであります。尤も此の事は音に兒童のみでなく唱歌や詩吟などを以て其の意味から生ずる感興以外たい自らの發聲を樂む事は吾々にも常にあるものであります。更に兒童の場合、次第に年齢が進みますと、音に音を出すのと云ふだけの事でなく、其の發音を故意に困難にして興ずる事が行はるゝのであります。彼の早口競争、轉倒語（犬と猿と云ふをヌイトルサと云ふ如き）、挿音語（多くは各音間に上音と同列の一音を挿みて犬と猿を「イキヌとかサカル」と云ふ如き）等の遊戲は皆此の例であります。又頭韻句と云ひまして頭の音の同じなる言葉を連語して一つの句をつつたものが兒童の間に

行はれます。ブロッサが之れを「フォルクスゲプロイヒリッヘスブラッハエキセルチ、エン」と呼んで居りますやうに各國にそれ／＼其の國の頭韻句が古くから存して居るものであります。例へば獨逸の“Bierbrauer Brauer braut Braun Bier” 佛蘭西の“Car Didon dina, dit on, Die dos d’un doctu dindon” 等の如き、又我が國にも種々ありますが例の「ながもちのうへに生米七粒」や「瓜賣が瓜賣のこしうり／＼と瓜賣りあるく瓜賣の聲」の如き之れであります。蓋し頭韻は多く早く誦し難いものであります。之れが遊戲の中に舌の運動の練習ともなるのであります。又之れ等とは全く別種で口を以てする聲音の遊戲の主なる物は口笛であります。次に自ら音を發して樂む中に器具を用ゆるものがあります。種々の樂器は即ち之れに他なりませんが兒童の遊戲として即ち玩具として最も幼くから用ひらるゝものに彼の「がら／＼」や所謂「でんぐ／＼大鼓に笙の笛」の類、數限りなく多くのものがあります。其の他音響のみのものでなくて此の性を併有しておる玩具は無數であります。蓋し

兒童が如何に音響のみ（必ずしも音樂的興味でなく）を以て遊戯とするかと云ふ事は近年兒童間に流行しました「がり〜」や「アララ」の如き例が最もよく之れを示して居ります。「アララ」の方は多少の美音があるにしましても「ガリ〜」の如きは全く騒しき噪音たるに過ぎません。而かも兒童は之を以て音を發すると云ふ所から最も興味ある遊戯としたのであります。第三には視覺の遊戯でありますが、之れを四つに分ければ光と色と形と運動とを見るの樂みであります。蓋し是れは兒童の玩具として最も普通なるものでありまして、特に詳説を要せぬ事でありますが、茲に視覺的玩具として一個で以つて此の四つの性質を具へて居るのが彼の「開花眼鏡」であります。開花眼鏡は普通百色眼鏡と云ひまして古くからある簡單なる玩具でありますが、多くの古い玩具が次第に淘汰されてゆくうちに之れが今も尚ほ多く兒童の愛玩に存して居る所を見ても兒童が如何に視覺の遊戯殊に右四性質を併せ好むかと思はるゝのであります。硝子子を透して明るき方を見る所に光りの快があります。

四
す。色硝子の細片に諸種の色彩を樂み、廻轉によつて種々の形と其の變化の運動から生ずる樂みを受ける事が出来るのであります。其の他此の四性質が分れて種々の遊戯となり又玩具となつて居る事はいくらでもその例を見出す事が出来ましやう。以上觸聽視の他嗅覺に於ても味覺に於ても、兒童は夫々の遊戯を行つておるのであります。只此れ等の感覺に於ては特に「何々遊び」と名のつかぬ程の原始的單純なる種類のもの、多い爲めに格段に遊戯として見做されて居ぬ事が多いのであります。併し其の原始的なると共に又他の種々な遊戯の中へ浸入して居る事に於て、感覺は兒童の最も重要な内容なのであります。

二、想像 想像が遊戯の心理的内容をなす事は更めて言ふまでもありません。御承知の如く、想像作用は所動的想像と能動的想像とに分つ事が出来ますが、此兩者ともに兒童の遊戯の主なる内容であります。殊に所動的想像は所謂 幼 覺 力 として殆ど一切の遊戯の通有性をなすと云ふてもよいのであります。そこで昔から云ふ、遊戯の特

性は其の幻覺にあると云ふ説さへ起る譯でありま
す。殊に人形遊び（人形遊びと云ふ時は女兒に限
る事）のやうに思ふ方もありますが、遊戯心理で人
形遊びと申す時は動物類の玩具をも一切含めた方
が便利であります。に於て此の特性が著いのであ
ります。而して兒童の此の想像性は非常に強いも
のであります。屢々現實と假想との差別が混交
して仕舞ふのであります。即ち人形遊びにしまし
ても、之れが眞の人ではない動物では無いと云ふ
事は、一方にはよく知つて居るのですが、之を「あ
かちゃん」とか「お馬」とか弄んで居る中にいつの
間にか眞に赤坊たり馬たる様の氣（即ち幻覺）にな
つて仕舞ふのであります。我々成人ならば、斯か
る時にも現實と假想との別は明かについて居まし
て、故意に假想を遠くする（即ち能動的想像）の
であります。兒童の場合では、全く所動的にか
ゐる事が行なはるゝのであります。其の他、砂が
お砂糖になり、木の葉が御皿になるの類皆同じ事
であります。而して此強い幻覺力がありますれば
こそ、遊戯が兒童にとつて最も熱心な興味を生ず

る譯であり又其の効果の大なる譯であります。次
ぎに能動的想像は遊戯に於ける種々の工夫となつ
て顯はれます。而して茲に最も活潑なる精神の活
動が行はるゝのであります。即ち想像力が益々養
はるゝ次第であります。尙ほ此事は後にもう一度
述べます。

三、模倣 想像作用が内（うち）のものを外へ出す性質
のものとするれば、模倣作用は外（そと）のものを内へとる
性質のものであります。而して兒童は其の豊富な
模倣性によつて、あらゆる外圍を遊戯の中へ取
り入れて來るのであります。前に遊戯の理論の所
で述べました様に、スベンサーが遊戯の説明を過
剩勢力と共に模倣を以て試みようとしたり、ウ
ントが傳承的遊戯も自製の遊戯も、共に模倣によ
らぬものはないと申した事などから見ても、模倣
がいかに遊戯の主要なる内容となつて居るかい分
るのであります。彼の一般に何々「ゴッソ」と稱さ
るゝものは皆模倣遊戯であります。只其れが傳承
的になつてゆく間には一寸模倣の御手本の分りに
くゝなつて居る様なものもあります。其の境遇

時代によつて。兒童が夫々の遊戲を自製してゆく事は誰も知る著しき事でありまふ。所で此の模倣には種々の種類がありまふが、普通所謂唯其儘に眞似ると云ふ事の他に、一種違つたもの即ち模倣に能動的性質の加はつたもの、之を戯曲模倣と名づけます。單に外圍を其の通り眞似ると云ふ外に之がまた兒童の遊戲に多く行なはるゝのであります。而して之が戯曲本能なる語を以て多く顯はされて居ります。即ち兒童の此の模倣が成人で云ふ戯曲代と同じ様なことである所から、兒童が之を本能的にするると云ふの意味でありましよう。

四、滑稽感情 兒童は甚だ滑稽感情に富むものであります。兒童の遊戲中に於ける「オドケ」「フザケ」等は即ち其れであります。殊に兒童が戯曲模倣によつて種々のものを模倣すると云ふ場合には、主として此の滑稽感情を伴ふ事が多いのであります。或はむしろ滑稽感情を満足させる爲めに戯曲模倣を爲すと云てよい如き場合も多いのであります。

五、好奇心 好奇心と云ふ語を以つて普通あら

はされて居る意味は、追求と満足との二作用を含むものであり、其の追求と云ふのは主として變化に對する追求でありますが、兒童の遊戲の内容となる所の好奇心は即ち、此の變化に對する追求であります。但し之れは或る意味に於ては想像が基になつてをるとも考へられぬ事はありませんが兒童の遊戲の實際に於ては一層簡單な、只變化其のものを喜ぶと云ふ事も尠くないのであります。極く稚い幼兒の時から、彼の「いない」「ばあには如何なる兒童でも興味を感じまふ。又玩具の中にいろ／＼あります隠れたり顯れたりする類の變化「猫と鼠」の如きも亦此の好奇心の遊戲であります。尙進んで兒童に知性的好奇心が盛になるやうになれば、其の種類の遊戲が次第に多くなるのであります。

六、自己保存本能 進化論上の過去に於て、自己保存のために必要であつた種々の動作及感情が本能的に兒童の遊戲の中へ顯はれて來るのであります。中にも最も著しい闘争の本能及狩獵の本能であります。それが色々な形式の下に負け勝を

争ひ競ふ性質の遊びとして行はれます。其事自らに何の必要もある譯ではありませぬけれども、只争ひ度い勝ちたひと云ふ本能的満足求めて楽しむのであります。「鬼ごっこ」「競争」「角力」等之に属するのであります。兒童が此の時期に於て最も戸外遊戲を好むに至る一つの原因は即ち此の爲であります。其れが十五六歳頃から形式を更へて來る事は後に述べます。構成本能や蒐集本能も、其の起源を考へれば即ち一種の自己保存本能に屬すべきものであります。之が亦兒童の遊戲の中に多く行はれます。唯普通の所謂自己保存本能即ち競争的の遊びとは様式を異にします所から、別項にした譯であります。

七、アタビズム 隔世遺傳など、譯されて居りますが、即ち進化論上の過去祖先に於て夫々何か必要あつて行はれた事が、今は別に直接の用もないのに、兒童期の中のある時期に可成強い衝動となつて現はれるのであります。兒童が衝動的に遊泳を好むのは水中生活時代の「アタビズム」であり、木の實や草の葉を嗜食するの風は、草食生活時

代の「アタビズム」であると云ふの類であります。而して兒童の惡戯と名づけらるゝ種々の無益有害的遊戲中には此の「アタビズム」に基くものが少くありません。即ちその兒童の平生に似あはぬ様な惡戯が別に意味もなく行なはれて叱つて抑へても禁じ難いと云ふ風の事が、父母教育者に非常に意外の感と與へ、何とも説明のつき兼ねる様の場合「アタビズム」なる事が屢々あるのであります。八、智力 兒童の智力の發達に伴ふて遊戲としてその智力を用ふるに到ります。即ち智力を正當なる現實の目的に使ふのみでなく、智的工夫そのものに遊戲としての快樂を感じるものであります。「智慧の紅」「智慧の輪」「考へ物」「繪探し」「謎」其の他種々の數學遊戲と云ふ類のこと皆之れであります。其の事が現實の課業である時には智的勞作を厭ひながら遊戲として多大の快樂を感じると云ふ兒童は少くありません。之に勝を争ふ感じの加はつたものには、碁、將棋、骨牌遊びの類があり、青年期から成人になるに及びては其の智力の進歩に伴ふて此の種の遊び方がますます複雑になるの

みならず、次第に遊戲的性質を減ずるに到ります。が、併し遊戲としては此の種のものが最も長く続くのであります。

九、社會性 自己保存の本能に基づく遊戲、即ち自らを主とする性質の遊戲が十才前後に最盛で十五才頃になると次第に形式を變ずる事を前に申しましたが、其れは即ち社會性の發達に伴ひ、團體的共同的興味が事毎に兒童に多くなつて來るからであります。即ち今迄は自分一人の興味を中心にして考へてゐたものが、共同全體の快樂を以て自己の樂みとするに致るのであります。是に於て色々の「ゲーム」と名のつく遊戲が行はれ、遊戲内の法則が法則そのものに對する興味を以て守らるゝに到るのであります。而して勝負にしましても自分一人が勝つと云ふよりは共同の全體が勝つと云ふ事を目的とするに到ります。又之と一方には社會的興味の發達によりて諸種の社會的現象の模倣が行はるゝに至ります。兒童の作る種々の俱樂部其他種々の兒群的組織は皆一種の遊戲であります。

八

三、兒童遊戲の影響條件

兒童の遊戲は以上述べたやうの心理的内容からなるのでありますから、從つて色々の遊戲の種類が生ずる譯であります。但し茲に明かに御斷りして置かなければならぬのは、以上の心理的内容が必ずしも單獨に現はれるものではないと云ふ事です。之は唯だ心理的分解を試みたのであります。實際上は之等諸内容が種々の複合をなして顯はれます。唯だその復合中の主要なる性質を以て其の遊戲の特色とするのが出来るのであります。そこで昔から遊戲の種類の方々に就て非常に澤山の説もありますが、コロッアなどの申す如く遊戲を心理的内容によつて分けるのが一番學術的であらうかと思ひます。偕て之で兒童の遊戲の横斷的分類は出來た譯であります。が、心理的に同性質の遊戲でも再び更に種々の事情によつて違ひが起ります。之れを遊戲の影響條件と名づけて圖式に擧げた如く、一、年齢 二、性別 三、氣質 四、健康 五、時代 六、外圍 七、教育の七條件を數へなければならぬと思ふのであります。

す。此の一件に就いて詳しい説明を致せば、又色々な問題もあるのであります。何しろ此等の條件は單に遊戲と限らず總て其人の心理現象に影響を與ふるものでありますから、従つて諸必理的内容より成る遊戲に變化變遷を與ふるとは明かな理であります。而して遊戲の教育としては此等の影響條件に對して、一方には適應一方には補修の注意が必要だと思ひます。

四、兒童遊戲の特性

遊戲の特性に關する論は種々ありますが「自由」と「快樂」と相擧ぐるとは大抵の説が一致して居ります。併し、遊戲と仕事との別を單に「自由」「快樂」としたのでは實際上種々の矛盾も起り易くあります。即ち實際生活上の仕事の中にも「自由」と「快樂」との存せぬ事はないのみならず、遊戲の中にも或る意味に於いては必ずしも「自由」のみならず「快樂」のみならざるものがあります。そこでグロースの言を參照して「實生活よりの自由」「其れ自らの愉快」と特に條件をつけた次第であります。即ち遊戲には其れとしての非自由、束縛（遊戲の

法則の如き）等があつても遊戲そのものは實生活から解き放たれた自由なものだと云ふ事であります。又同じく遊戲中には勞力も多少の苦痛もあつて必ずしも快樂のみと云ふのではないが其事全體としては愉快を本質として居るものである。又仕事にも愉快はあるが其れは結果としての愉快を期待するので、遊戲ではそのこと直接の愉快以外の目的をもたぬと云ふ意味を表はしたのであります。則ち茲に於て明かにお斷りして置かなければならぬのは、遊戲の本質は兒童の自發に基くものでなければならぬと云ふ事であります。是れやがて遊戲と體操の區別であり又眞の遊戲と形式のみは遊戲にして而かも實は遊戲でないものと、別に分かるゝ所であります。近來兒童の遊戲に就ての注意は大に行はれますが、遊戲の問題はその形式や種類の改良のみではないのであります。勿論其れも大切な事ではありますが、遊戲の眞價値として一層大切な事は如何にして兒童を遊戲に對して自發的ならしむるか、其の自發を如何に指導すべきやと云ふ點にあります。

五、兒童の遊戲の結果
兒童の遊戲の價值は兒童の身心全體の發達を助くる點であります。而して兒童の身心全體の完全なる發達は兒童をして善き實生活を遂げ得せしめる所以であります。即ち、此の意味に於いて、兒童の遊戲は實生活の準備になると云はるゝのであります。併し之れはどこまでも結果であつて目的ではありません。遊戲そのものが必ず此の目的即ち實生活の準備の爲めに存するものだ云ふことは同じことでありますが、言ひ現はし方の誤まりであります。此の區別を明かにしないといふと即ちグロースがバウルドギンから餘りに實際説に過ぐると云ふ批評を受けたと同じ誤謬に陥るのであります。以上各項簡単に申述べた他に、兒童の遊戲としては尙觸れなければならぬ細かい點が多くあります。併し初めに申しました如く、此のお話の目的は兒童の遊戲に關する問題中の主要のものだけを一つと纏めに圖式にあらはせようといふにありますが、其れ等の細かいこと詳しいことは一切省略致しました。唯多くの問題や從來の諸説の中から

これだけの圖式に纏める爲めの選擇に就ては多少の考究を費した積りであります。終りに臨んで澤山の御是正を願つて置きます。(終)

向上的修養(一)

(大日本女子教育會席上に於て)

中島徳藏氏談

▲私の強い婦人 今日の時勢が非常に進歩して、我々の思想の上に大變な變化を來たし、新舊の衝突が總ての上に著しく現はれて居ります。此時に當り我々の心得の一つにもしやうと思ひ、向上的修養と云ふ題に就てお話をする、今日の婦人は服裝でも髪容でも語遣ひでも或は行ひの仕方でも、強い我が判明と現はれて居ります、それに反して昔の婦人は我と云ふことは殆ど知らずに通して來たのであります、それ故に今日の婦人は何も彼も自分から割り出して、種々の事を行つて居ります、例へば衣服の色、模様などにしても、昔の人は極